

「中干し」の必要性 ～米作り 八十八の手間～

校長 近藤 幸栄

夏本番を前に連日暑い日が続いています。植物は夏の日差しを浴び、ぐんぐんと生長してきています。今年は何かと話題になるお米ですが、学校近くの水田の稲もだいぶ伸びてきたように思います。また、時折水田を渡る風が稲を揺らす姿に一服の清涼感を感じます。

米作りは、その漢字「米」から、八十八の作業があるとも言われています。水の管理だけみて見ても、田植え直後、田んぼには水がなみなみと張られます。これは、水の保温効果を利用して稲を春先の寒さから守る意味もあるのだそうです。確かに、水は一度温まってしまえば、急激に冷えることはありません。春先のまだ寒い時期には、寒さを防ぐ防寒着の役割のようです。

そして、六月ころ「中干し」という作業に入るのだそうです。わざと田んぼの水を抜き、根をしっかりと張らせるためです。水がない状態になれば、根は水を求め、自然と深く広く根を張ります。敢えて厳しい環境にさらし、強く・たくましくするためのトレーニングのようです。（「中干し」については、根の発育促進だけでなく、病気の予防や土壌の改良など様々な効果があるようです。）



そして、八月にはまた、水を張ります。今度は、春先とは逆の効果です。高温になっても、水はそんなに急激に熱くなりません。水を張っておくことで夏の猛暑から稲を守るのです。

この一連の水の管理に、先人の知恵のすごさを感じると共に、「中干し」の大切さを改めて感じます。春先や夏場は、稲を守るために水を上手に使い、「中干し」により丈夫な稲に育てるために、敢えて過酷な環境にさらし、しっかり根を張らせるのです。

子どもたちの成長にも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。

子どもたちは一生、何も失敗せずに順風満帆で人生を送ればよいのかもしれませんが、そんなわけには行かないことがほとんどです。友達との人間関係に悩むこともあるでしょう。勉強につまずくこともあるかもしれません。部活動で上手くいかないことや高校入試、大学入試、その後働いてもむしろ上手く行かないことの方が多いかもしれません。全て先回りして、あらゆる障壁を取り除くことは無理です。もし、できたとしても反対に耐性やレジリエンスの低いか弱い子どもになる可能性もあります。

そう考えると、子どもたちの成長にも「中干し」のような負荷・困難は必要だと考えます。むしろ、たくましく成長するためには「人生の中干し」は必要かもしれません。

まもなく夏休みとなります。1学期も学校の教育活動にご理解・ご協力をいただき本当にありがとうございました。保護者の皆様のお陰で大きな事故等もなく無事終われます。是非、この夏休みも子どもたちにとって有意義で安全な夏休みとなることを願っています。